

## 師走のきせつ

今年もはや十二月になりました。十二月のことを和名で師走(しわす)、極月(ごくつき)、雪見月(ゆきみづき)等といひます。

師走とは、経をあげるために師僧が東西を馳せ走る月であるところから名付けられたようです。

師走日和が続くといひのですが、師走風で風邪など引かぬよう注意しましょう。

## 十二月八日 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日です。お釈迦様はインドのカピラ国の王子として生まれ、二十九歳の時、人生に疑問を持たれて王宮を出て六年間苦しい修行をされました。しかしどうしても悟りに至らず、或る日一人下山を下りて川で身を洗い清め、大きな菩提樹の下で座禅を組まれました。七日間座り続けて十二月八日の未明、心のなかの疑問が解消し、遂に清々しい悟りの境地に達せられたのです。

## 十二月三十一日除夜の鐘

夜を除くと書きますが、夜とはやみのことであり、煩悩のことでもあります。この一年を顧みて反省し、新年からまた新たな気持ちで出発するのです。百八つの鐘の音は、百八の煩悩を意味します。

仏教で、「根本煩悩」といわれるのは、貪・瞋・痴・悪・見・疑・慢の六種の煩悩である。貪(とんじんち)の三つは、人間という存在に根ざす根本の煩悩と見られ、特に「三毒」とも呼ばれる。

平成28年11月24日(木) 初雪を撮影



## 発起 (ほっき)

仏教では、「発起菩提心」「一念発起」という言葉があるが、悟りを求めて仏教精進を始めようとする心を指します。同様に、「発心」も同意語です。

一度、決心したら、悟りの境地まで、仏道に没頭する事をも意味し、今日では、何かことを起こすことに使われ「一大決心」的な時も同意語として使われています。

従って「発起人」とは、先頭に立って、後援会や、会社の設立や寺院の修復等に活躍する人を指すようになりました。

## 仏教が生んだ日本語

平成二十八年十月十九日(水)撮影 護持会費にて造園する



## 空海の言葉 シリーズ

澄浄の水には、影、万像を落す

「十住心論」

●●● 澄みきって浄らかな水面には、すべての影が映る

弘法さんは、目まぐるしく変わる人の心を湖の水にたとえて、こういわれています。

澄みきって鏡のような水面には、周りの景色も空の色も雲の形も、すべての姿がそのままに映る。

泥水が流れ込んで濁った湖の、ざわざわと騒がしく揺れ動いている水面には、木の葉一枚の姿すら映らない。

心が気ままに動いていると、世の中のことがなんにも見えず、判断に迷うばかりです。心をじっと澄ますと世間の動きが見えてくる、こんな風に聞こえます。

